

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070501180		
法人名	三菱電機ライフサービス(株)		
事業所名	飯田ケアアートガーデングループホーム北方の郷		
所在地	長野県飯田市北方1885		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果市町村受理日	平成23年5月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070501180&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

センター方式に取り組んでいます。ご家族様のご協力もいただき、入居者様の生活習慣や、日々の会話の中からも生活歴を探り、地域の中でその人らしい暮らしを続けていただけるように、定期的なカンファレンスを充実させてチームケアに取り組んでいます。
スタッフ教育、研修の充実に取り組んでいます。入社時、階層別の研修を行っています。専門的知識にとどまらず、社内講師によるビジネスマナー研修も行い、サービス業としての姿勢も学んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大手会社組織の事業所として組織体制や研修体制が確立している。「…お客様が笑顔で気持ちよくサービスをご利用になれるように」とコンセプトがあるが、個人情報保護・入居者保護の取り組みなどの研修や家族へのアンケート調査を行って、利用者本位のサービスの実施に向けて取り組んでいる。アンケート等で出された意見や要望については、改善策も含めて家族等に報告している。利用者の快適で安全な生活にも力を入れており、防災対策の徹底・掃除や食品の安全衛生への取り組みがある。職員に対しても、スタッフ会議は全員が出席できるよう配慮しており、個人面談も行われ、職員の意見を汲み取る体制があり、職員の定着に反映されている。今後、さらに地域の特色を活かし、地域に根ざしたホームになることを期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(こもれび)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
ユニット名(とまりぎ)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、長年培ってこられた暮らしを続けられるように、「パーソン・センタード・ケア」の理念に基づいた事業所理念を掲げ実践に努めている。	理念では“一人ひとりの思いを尊重・・・”“馴染みの生活を続けていかれるようささえあって・・・”などあり、実践を通して振り返りが行われている。また、年度初めの支店方針に基づいて、具体的なスタッフ目標が話し合いで決められており、ケアに活かす努力がされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のボランティア(歌、花を植えて下さる)の受け入れや依頼をしながら交流を深めている。	前回の課題にあげられており、新興住宅地域で交流が難しいが、具体的な取り組みとして「ボランティアの募集」「防災訓練への参加」を周りの住民や近隣に呼びかけた。地区自治会へは加入しており、地元の地主さんの協力も得て地域の情報をもらっている。中学生や各団体等のボランティアは積極的に受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員の方(地域の方)を中心に、認知症ケアの取り組み(センター方式の説明をさせて頂いたり、行事や防災避難訓練時に近隣の方にも参加いただき、理解を図っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月の会議を行い、その都度、入居者様、職員の状況、行事等の報告、あるいは防災訓練に参加(見学)いただき、いただいたご意見やご指導を日々の運営にフィードバックしている。	2ヶ月に1回定期的に行われ、利用者等の状況報告や取り組みについて話している。防災訓練後には、自動通報装置が時間がかかりすぎるのではという意見があり連動して短縮するなどの改善を図った。現在は、ホームの場所がわかりにくいとの指摘をうけ案内板の設置を検討中である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は、できる限り連絡を取ってご指導いただくように努めている。ただ、担当者が理解されていないこと(医療連携など)もあり運営に活かせないこともある。	運営推進会議には地域包括支援センターの参加があり、状況の報告はされている。市の担当者へ行事の際に見学に誘う、わからないこと等を相談に行くなど行っている。	

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なカンファレンスを行なっている。また、職員同士が、常に確認しあって努めている。	入居者保護の取り組みとして身体拘束ゼロについてもマニュアルがあり、全職員の会議で確認している。日常的にも具体的な事例で確認するよう取り組んでいる。新人研修では、虐待防止法についての学習が組み入れられている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なカンファレンスを行なっている。また、職員同士が、常に確認しあって努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自施設での研修は出来ていない。また、近隣地域での研修の開催が少なく、協力いただきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一方的な説明にならないように、ご家族様の日程に合わせ十分な時間をとって対応させて頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置。家族交流会の機会を設けている。また、退所時にアンケートをお渡しして、率直なご意見をいただける工夫をしている。スタッフ会議時の参考資料としている。	運営推進会議への家族の参加、家族交流会など意見や要望を表せる機会を作っている。昨年は、家族に対してアンケート調査を行い、希望のあった入浴についてはリフトを設置して回数を増やした。スタッフの対応や言動についてはマナー研修会等を行い改善に努め、アンケート結果や取り組みに関して家族等に報告を行っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を日常的にも必要に応じて行なっている。また、スタッフ会議時は、職員の意見優先の場とし、管理部門に直接通じる機会としている。	月2回のスタッフ会議は、基本的に全員参加として職員の見解を出し合っている。年4回程度の管理者と職員との個人面談を通して悩みや改善点等を記入する機会をもうけている。日常的にも、意見を聞いたり、話をすることに努めている。	

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1.待遇改善(処遇改善交付金の支給等) 2.福利厚生充実 3.研修の充実等を通じ、就業環境の整備を図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	階層別の社内研修を実施。施設長研修、リーダー研修、スタッフ研修、新人研修。また、センター方式活用のための研修。医療知識習得の研修を行った。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種団体(GH連絡会、飯伊圏域介護保険事業者連絡協議会など)へ加入。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人とが家族の要望を明記いただいたりケアプランにご家族記入欄を設けてできる限り意向に沿えるように努めている。また、センター方式シートに職歴、嗜好、生活習慣等を(生活歴)を記入いただき、その方を知り思いに添えるように努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、出来るだけご本人様の様子をお知らせして安心していただける配慮に努めている。できる限りこちらからお話、要望を伺うように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの作成時にご意見を頂いたりして、できる限り意向に沿える事と一緒に取り組めるケアに努めている。		

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式を導入し、ご家族様からの情報をヒントに、それぞれの得意分野を活かせるように、また人生の先輩として料理の手順や、野菜のつくり方を訓えていただいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と過ごせる機会を作り本人と家族、職員と家族が交流できるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴等を参考に、あるいはご本人さんのご希望を伺いながら、外出に出かけたりお花見(ドライブ)等は出かけるだけ馴染みのある場所を選んでいる。また、馴染みの人たちが来所していただける雰囲気づくりに努めている。	一人ひとりの生活歴を活かして、家族と連携し、馴染みの美容院や教会に行ったり、希望を聞いて墓参り、自宅への帰省等を支援している。また、ドライブでは馴染みの場所に行くなどの工夫に努めている。兄弟や近所の方の面会もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペース(リビング)を活かして、上手く関われる、テーブル配置を検討したり、会話ができる雰囲気、環境づくりに努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅のケアマネ、ソーシャルワーカーへの情報提供等、必要に応じての支援は行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使って、今までの生活や、馴染んできたことを尊重しながら、カンファレンスを繰り返しながら、取り組んでいる。	センター方式を使用して、家族に記入してもらったり、本人に聞いたりしながら思いや意向の把握に努めている。職員も担当利用者についてセンター方式に記入することによって理解が深まり、日常の中でわかったことを書き足している。気づいたことは、カンファレンス等で話し合い、ケアに活かすよう努めている。	

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使っている。入居時に、ご家族様に記入していただいたシートを参考に、さらに日々の生活の中でも、把握できるように努めている。また、必要に応じて随時情報をいただくように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴を参考に、日々の個別記録で状況の把握をし、さらにスタッフ全員で共有できるように確実に申し送りを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題が発生した時点で、カンファレンスを行い課題抽出を行い、センター方式の取り組みを通して介護計画に繋げている。日常のご家族に参加いただくことは困難なことも多いため、その時の状況に応じて家族に相談する事に努めている。	利用者に対して担当制をとっており、介護計画についてはスタッフ会議のなかでカンファレンスを行い、皆で意見を出し合って作成している。前回の課題であったセンター方式のさらなる活用についてはシートの整理や書き方の工夫に取り組み始めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式シートを個別記録に取り組みで、日々の申し送り、カンファレンス時の参考資料として、共有、見直しを行なっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現体制で、安全に対応できる範囲で、できる限りその時々個別のニーズに対応できるように、チームケアを目指している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実際には、地域資源の発掘はまだまだ不十分であるが、本人の希望や状態に合わせた支援ができるよう努めている。		

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご家族様の意向、ご本人様の状況に応じて、安心な生活を続けられるようにかかりつけ医と密に連携をとっている。8割の方が在療診のため緊急時夜間の対応も連携が取れるようになっている。</p>	<p>受診については、家族や本人の希望に添っており、通院は原則家族が行っているが、困難な場合は規定により支援している。8割の利用者が二人の先生に往診を受けているため、連携がとりやすく緊急時や夜間に関しても安心できる体制がとれている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの医療連携により、常に体制を整え、支援を行なっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ソーシャルワーカーと密に連携をとり、入院中の状況把握、退院後の指導を頂いたり積極的な関係づくりに努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>事業所として「重度化に関わる指針」は明確にしている。また、ご家族様とも状況に応じてその都度ケアプランや意向確認書を取り交わし、状態に合わせたケアに取り組んでいる。</p>	<p>入居時において事業所の「重度化に関わる指針」を説明している。今までも状況に応じて対応している。利用者に重度の方が多くなったこともあり、急変時の対応・基礎疾患・症状の見極め方などの研修や緊急対応マニュアルを作成している。</p>	<p>今後、指針の説明と併せて、早い時期に本人・家族の意向を確認し、状況に応じて事業所のできることを話し合いながら支援されることが望まれる。また、職員間でも一人ひとりの希望や方針を共有されることが望まれる。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアルの確立、研修、救命講習を受講している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的(1/月)防災避難訓練、総合訓練を行い、地域の方にも参加いただいている。また、近隣の方の協力体制も整えている。</p>	<p>スプリンクラー・自動火災報知機・火災通報装置・煙熱感知器などの設備が整っており、夜間を想定・通報訓練など定期的な訓練も実施されている。11月には、地域近辺の方にも呼びかけ、総合訓練を行った。地域との協力体制も築いている。</p>	

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行ったり、カンファレンスを通して管理者、リーダーが指導を行い、日常的にもスタッフ間で確認しあっている。	プライバシーの配慮や人格を尊重することについては、具体的な内容でカンファレンス等で話し合っている。排泄場面や部屋へ入る時、言葉遣いなど日常的に気になることがあると管理者やリーダーが中心となってスタッフで確認しあっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式のシート記入の際に、お話を伺ったり、カンファレンスに参加いただいている。また、日頃のケアの中でまずは意思確認を怠らないように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式の理念(その人らしい暮らし)に沿って、またその人の性格や生活歴を把握することによってできるだけ本人の生活ペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣、ご本人様の好みの取り入れ、生活歴から得た馴染みのおしゃれや身だしなみ等を配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の意思を尊重しながら、日々の食事づくりへの参加への促し、役割づくりに努めている。役割以上に生活の1部になっている方もいらっしゃる。	献立作成については事業所統一ではあるが、希望にあわせていなり寿司や季節の献立、外食など取り入れている。食事作りや準備、片付けは利用者の希望や状況にあわせて職員と一緒にしている。調査の日も、彩りよく盛り付けする方やテーブルを拭いている方がいらした。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者の身体機能を考慮した献立(栄養士の指導あり)による食事と、水分摂取チェック表の活用で脱水防止に努めたり、食事量も必要に応じてチェックし、状態に合わせた支援を行なっている。		

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアの促し、見直し、義歯洗浄支援。すぐことが上手くできない方は、ガーゼ清拭等を行なって清潔、肺炎予防に努めている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>それぞれのケアプランに、その人の排泄パターン、リズムに合わせた支援計画を作り、全員で取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握して、必要な場合はふたりで介助して日中はトイレで排泄ができるよう支援している。むれないよう可能な場合はリハビリパンツから布パンツに代えるなど工夫している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事、水分摂取(牛乳、ヨーグルト、ゼリー)、適度な運動の促し等で予防に努めている。また、主治医や看護師に相談や指導を受けながら対応している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>まずは、入居者様の意思を確認させていただく。ただ、1人ひとりにゆっくりとした対応を心がけているが、その半面入浴回数には限界が生じてしまう。</p>	<p>午後が入浴の時間になっており、希望にあわせて週に3回は入浴できるよう支援している。二人介助の方もいるのでリフトを取り入れた。夏場はシャワー浴、むくみのある方や入れない方には足浴を行うなど工夫をしている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>こちらの都合ではなく、生活歴、習慣を尊重した上で、昼休み、就寝時間は個別に合わせている。また、ゆっくりと休んでいたできるように、静かな落ち着いた環境づくりに努めている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>研修、薬辞典等で学ぶ機会をつくっている。また、各自の服薬説明書をファイルして、常に見られるようにしている。状態の変化に応じて、主治医に相談している。</p>		

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自に合わせた好みへの対応、その方に合った役割づくりに努めている。日常的に2Fとの交流を図り(合同企画)気分転換に繋げている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の承諾、ご協力を頂きながら、買い物や馴染みの喫茶店等に出かけられる支援を行なっている。	お花見やドライブ、会社が行う秋祭り、買い物など家族の協力を得ながら実施している。個々の希望の違いや重度の方が増える中での外出は難しくなっているが、毎日の生活では自由に庭へ出たり、敷地内の畑へ行っている。	2ユニットのホームであり、個人差もあり困難な面も見受けられる。今後、一人ひとりの状況や希望に配慮し、ちょっとした外出の工夫を検討していただき、さらに機会が増えるよう支援されることが望まれる。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の承諾、ご協力を頂きながら、ご本人の希望に応じて所持していただいている。また、買い物の際には、ご本人の意思による選択や支払いを支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて自由に使用できる環境を整えている。また、定期的にお手紙を書かれる方には、常に便箋、封筒を用意する等の配慮もしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、清潔と安全に配慮している。また、季節に因んだ製作物や、花を飾ったりしている。食事やお茶の時間には、ゆったりした音楽を流して、穏やかな環境づくりに努めている。	居間はソファやダイニングテーブルが置かれすっきりとしており、壁には季節に応じた作業療法士の指導を受けて皆で作成した貼り絵が飾られている。台所はオープンスタイルになっているが、換気がきちっとされており匂いはない。気温・湿度の管理、ホーム内の清潔は配慮されている。西日対策ではすだれを利用している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全な生活のための見守りはさせて頂きながら、1人ひとりの生活ペースで過ごしていただけるように心がけている。		

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出きるだけ馴染みのものを持って来ていただくようお話をしている。また、安全に気持ちよく過ごしていただけるように、定期的なお掃除にも配慮している。	ベッドの方や床に畳を置き布団で休まれる人もおり、それぞれが使い慣れた物を持ち込み、ゆっくり安心して過ごすことができるよう支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓、清潔、場所が明確に理解できるような配慮に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、長年培ってこられた暮らしを続けられるように、「パーソン・センタード・ケア」の理念に基づいた事業所理念を掲げ実践に努めている。	理念では“一人ひとりの思いを尊重・・・”“馴染みの生活を続けていかれるようささえあって・・・”などがあり、実践を通して振り返りが行われている。また、年度初めの支店方針に基づいて、具体的なスタッフ目標が話し合いで決められており、ケアに活かす努力がされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のボランティア(歌、花を植えて下さる)の受け入れや依頼をしながら交流を深めている。	前回の課題にあげられており、新興住宅地域で交流が難しいが、具体的な取り組みとして「ボランティアの募集」「防災訓練への参加」を周りの住民や近隣に呼びかけた。地区自治会へは加入しており、地域の地主さんの協力も得て地域の情報をもらっている。中学生や各団体等のボランティアは積極的に受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員の方(地域の方)を中心に、認知症ケアの取り組み(センター方式の説明をさせて頂いたり、行事や防災避難訓練時に近隣の方にも参加いただき、理解を図っている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月の会議を行い、その都度、入居者様、職員の状況、行事等の報告、あるいは防災訓練に参加(見学)いただき、いただいたご意見やご指導を日々の運営にフィードバックしている。	2ヶ月に1回定期的に開催がされ、利用者等の状況報告や取り組みについて話している。防災訓練後には、自動通報装置が時間がかかりすぎるのではという意見があり連動して短縮するなどの改善を図った。現在は、ホームの場所がわかりにくいとの指摘をうけ案内板の設置を検討中である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は、できる限り連絡を取ってご指導いただくように努めている。ただ、担当者が理解されていないこと(医療連携など)もあり運営に活かせないこともある。	運営推進会議には地域包括支援センターの参加があり、状況の報告はされている。市の担当者へ行事の際に見学に誘う、わからないこと等を相談に行くなど行っている。	

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なカンファレンスを行なっている。また、職員同士が、常に確認しあって努めている。	入居者保護の取り組みとして身体拘束ゼロについてもマニュアルがあり、全職員の会議で確認している。日常的にも具体的な事例で確認するよう取り組んでいる。新人研修では、虐待防止法についての学習が組み入れられている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なカンファレンスを行なっている。また、職員同士が、常に確認しあって努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自施設での研修は出来ていない。また、近隣地域での研修の開催が少なく、協力いただきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一方的な説明にならないように、ご家族様の日程に合わせ十分な時間をとって対応させて頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置。家族交流会の機会を設けている。また、退所時にアンケートをお渡しして、率直なご意見をいただける工夫をしている。スタッフ会議時の参考資料としている。	運営推進会議への家族の参加、家族交流会など意見や要望を表せる機会を作っている。昨年は、家族に対してアンケート調査を行い、希望のあった入浴についてはリフトを設置して回数を増やした。スタッフの対応や言動についてはマナー研修会等を行い改善に努め、アンケート結果や取り組みに関して家族等に報告を行っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を日常的にも必要に応じて行なっている。また、スタッフ会議時は、職員の意見優先の場とし、管理部門に直接通じる機会としている。	月2回のスタッフ会議は、基本的に全員参加として職員の見解を出し合っている。年4回程度の管理者と職員との個人面談を通して悩みや改善点等を記入する機会をもうけている。日常的にも、意見を聞いたり、話をするに努めている。	

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1.待遇改善(処遇改善交付金の支給等) 2.福利厚生充実 3.研修の充実等を通じ、就業環境の整備を図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	階層別の社内研修を実施。施設長研修、リーダー研修、スタッフ研修、新人研修。また、センター方式活用のための研修。医療知識習得の研修を行った。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種団体(GH連絡会、飯伊圏域介護保険事業者連絡協議会など)へ加入。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人とが家族の要望を明記いただいたりケアプランにご家族記入欄を設けてできる限り意向に沿えるように努めている。また、センター方式シートに職歴、嗜好、生活習慣等を(生活歴)を記入いただき、その方を知り思いに添えるように努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、出来るだけご本人様の様子をお知らせして安心していただける配慮に努めている。できる限りこちらからお話、要望を伺うように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの作成時にご意見を頂いたりして、できる限り意向に沿える事と一緒に取り組めるケアに努めている。		

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式を導入し、ご家族様からの情報をヒントに、それぞれの得意分野を活かせるように、また人生の先輩として料理の手順や、野菜のつくり方を訓えていただいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と過ごせる機会を作り本人と家族、職員と家族が交流できるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴等を参考に、あるいはご本人さんのご希望を伺いながら、外出に出かけたりお花見(ドライブ)等は出きるだけ馴染みのある場所を選んでいる。また、馴染みの人たちが来所していただける雰囲気づくりに努めている。	一人ひとりの生活歴を活かして、家族と連携し、馴染みの美容院や教会に行ったり、希望を聞いて墓参り、自宅への帰省等を支援している。また、ドライブでは馴染みの場所に行くなどの工夫に努めている。兄弟や近所の方の面会もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペース(リビング)を活かして、上手く関われる、テーブル配置を検討したり、会話ができる雰囲気、環境づくりに努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅のケアマネ、ソーシャルワーカーへの情報提供等、必要に応じての支援は行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使って、今までの生活や、馴染んできたことを尊重しながら、カンファレンスを繰り返しながら、取り組んでいる。	センター方式を使用して、家族に記入してもらったり、本人に聞いたりしながら思いや意向の把握に努めている。職員も担当利用者についてセンター方式に記入することによって理解が深まり、日常の中でわかったことを書き足している。気づいたことは、カンファレンス等で話し合い、ケアに活かすよう努めている。	

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使っている。入居時に、ご家族様に記入していただいたシートを参考に、さらに日々の生活の中でも、把握できるように努めている。また、必要に応じて随時情報をいただくように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴を参考に、日々の個別記録で状況の把握をし、さらにスタッフ全員で共有できるように確実に申し送りを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題が発生した時点で、カンファレンスを行い課題抽出を行い、センター方式の取り組みを通して介護計画に繋げている。日常のご家族に参加いただくことは困難なことも多いため、その時の状況に応じて家族に相談する事に努めている。	利用者に対して担当制をとっており、介護計画についてはスタッフ会議のなかでカンファレンスを行い、皆で意見を出し合って作成している。前回の課題であったセンター方式のさらなる活用についてはシートの整理や書き方の工夫に取り組み始めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式シートを個別記録に取り組みで、日々の申し送り、カンファレンス時の参考資料として、共有、見直しを行なっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現体制で、安全に対応できる範囲で、できる限りその時々個別のニーズに対応できるように、チームケアを目指している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実際には、地域資源の発掘はまだまだ不十分であるが、本人の希望や状態に合わせた支援ができるよう努めている。		

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご家族様の意向、ご本人様の状況に応じて、安心な生活を続けられるようにかかりつけ医と密に連携をとっている。8割の方が在療診のため緊急時夜間の対応も連携が取れるようになっている。</p>	<p>受診については、家族や本人の希望に添っており、通院は原則家族が行っているが、困難な場合は規定により支援している。8割の利用者が二人の先生に往診を受けているため、連携がとりやすく緊急時や夜間に関しても安心できる体制がとれている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの医療連携により、常に体制を整え、支援を行なっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ソーシャルワーカーと密に連携を取り、入院中の状況把握、退院後の指導を頂いたり積極的な関係づくりに努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>事業所として「重度化に関わる指針」は明確にしている。また、ご家族様とも状況に応じてその都度ケアプランや意向確認書を取り交わし、状態に合わせたケアに取り組んでいる。</p>	<p>入居時において事業所の「重度化に関わる指針」を説明している。今までも状況に応じて対応している。利用者に重度の方が多くなったこともあり、急変時の対応・基礎疾患・症状の見極め方などの研修や緊急対応マニュアルを作成している。</p>	<p>今後、指針の説明と併せて、早い時期に本人・家族の意向を確認し、状況に応じて事業所のできることを話し合いながら支援されることが望まれる。また、職員間でも一人ひとりの希望や方針を共有されることが望まれる。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアルの確立、研修、救命講習を受講している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的(1/月)防災避難訓練、総合訓練を行い、地域の方にも参加いただいている。また、近隣の方の協力体制も整えている。</p>	<p>スプリンクラー・自動火災報知機・火災通報装置・煙熱感知器などの設備が整っており、夜間を想定・通報訓練など定期的な訓練も実施されている。11月には、地域近辺の方にも呼びかけ、総合訓練を行った。地域との協力体制も築いている。</p>	

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行ったり、カンファレンスを通して管理者、リーダーが指導を行い、日常的にもスタッフ間で確認しあっている。	プライバシーの配慮や人格を尊重することについては、具体的な内容でカンファレンス等で話し合っている。排泄場面や部屋へ入る時、言葉遣いなど日常的に気になることがあると管理者やリーダーが中心となってスタッフで確認しあっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式のシート記入の際に、お話を伺ったり、カンファレンスに参加いただいている。また、日頃のケアの中でまずは意思確認を怠らないように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式の理念(その人らしい暮らし)に沿って、またその人の性格や生活歴を把握することによってできるだけ本人の生活ペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣、ご本人様の好みの取り入れ、生活歴から得た馴染みのおしゃれや身だしなみ等を配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の意思を尊重しながら、日々の食事づくりへの参加への促し、役割づくりに努めている。役割以上に生活の1部になっている方もいらっしゃる。	献立作成については事業所統一ではあるが、希望にあわせていなり寿司や季節の献立、外食など取り入れている。食事作りや準備、片付けは利用者の希望や状況にあわせて職員と一緒にしている。調査の日も、彩りよく盛り付けする方やテーブルを拭いている方がいらした。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者の身体機能を考慮した献立(栄養士の指導あり)による食事と、水分摂取チェック表の活用で脱水防止に努めたり、食事量も必要に応じてチェックし、状態に合わせた支援を行なっている。		

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアの促し、見直し、義歯洗浄支援。すぐことが上手くできない方は、ガーゼ清拭等を行なって清潔、肺炎予防に努めている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>それぞれのケアプランに、その人の排泄パターン、リズムに合わせた支援計画を作り、全員で取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握して、必要な場合はふたりで介助して日中はトイレで排泄ができるよう支援している。むれないよう可能な場合はリハビリパンツから布パンツに代えるなど工夫している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事、水分摂取(牛乳、ヨーグルト、ゼリー)、適度な運動の促し等で予防に努めている。また、主治医や看護師に相談や指導を受けながら対応している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>まずは、入居者様の意思を確認させていただく。ただ、1人ひとりにゆっくりとした対応を心がけているが、その半面入浴回数には限界が生じてしまう。</p>	<p>午後が入浴の時間になっており、希望にあわせて週に3回は入浴できるよう支援している。二人介助の方もいるのでリフトを取り入れた。夏場はシャワー浴、むくみのある方や入れない方には足浴を行うなど工夫をしている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>こちらの都合ではなく、生活歴、習慣を尊重した上で、昼休み、就寝時間は個別に合わせている。また、ゆっくりと休んでいたできるように、静かな落ち着いた環境づくりに努めている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>研修、薬辞典等で学ぶ機会をつくっている。また、各自の服薬説明書をファイルして、常に見られるようにしている。状態の変化に応じて、主治医に相談している。</p>		

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自に合わせた好みへの対応、その方に合った役割づくりに努めている。日常的に2Fとの交流を図り(合同企画)気分転換に繋げている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の承諾、ご協力を頂きながら、買い物や馴染みの喫茶店等に出かけられる支援を行なっている。	お花見やドライブ、会社が行う秋祭り、買い物など家族の協力を得ながら実施している。個々の希望の違いや重度の方が増える中での外出は難しくなっているが、毎日の生活では自由に庭へ出たり、敷地内の畑へ行っている。	2ユニットのホームであり、個人差もあり困難な面も見受けられる。今後、一人ひとりの状況や希望に配慮し、ちょっとした外出の工夫を検討していただき、さらに機会が増えるよう支援されることが望まれる。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の承諾、ご協力を頂きながら、ご本人の希望に応じて所持していただいている。また、買い物の際には、ご本人の意思による選択や支払いを支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて自由に使用できる環境を整えている。また、定期的にお手紙を書かれる方には、常に便箋、封筒を用意する等の配慮もしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、清潔と安全に配慮している。また、季節に因んだ製作物や、花を飾ったりしている。食事やお茶の時間には、ゆったりした音楽を流して、穏やかな環境づくりに努めている。	居間はソファやダイニングテーブルが置かれすっきりとしており、壁には季節に応じた作業療法士の指導を受けて皆で作成した貼り絵が飾られている。台所はオープンスタイルになっているが、換気がきちっとされており匂いはない。気温・湿度の管理、ホーム内の清潔は配慮されている。西日対策ではすだれを利用している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全な生活のための見守りはさせて頂きながら、1人ひとりの生活ペースで過ごしていただけるように心がけている。		

外部評価結果(グループホーム北方の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出きるだけ馴染みのものを持って来ていただくようお話をしている。また、安全に気持ちよく過ごしていただけるように、定期的なお掃除にも配慮している。	ベッドの方や床に畳を置き布団で休まれる人もおり、それぞれが使い慣れた物を持ち込み、ゆっくり安心して過ごすことができるよう支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓、清潔、場所が明確に理解できるような配慮に努めている。		